



津山の人・物・技術  
など、明日誰かに自慢  
したくなる津山のいい  
ところを紹介します

ええとこ  
いっぱい

津山

18  
つやまじまん

自慢

## 共同開発した製品が世界で活躍中! 株式会社アル技研(国分寺)

昭和62年(1987)創業。社名は、50音順で電話帳や名簿の先頭に来るので覚えられやすいこと、モノ作り技術で一番を目指す思いから命名。令和元年(2019)から社長に就任した、行本武史さん(写真後列右から2人目)に話を聞きました。

### 津山から世界へ

創業時から、電子部品の金型(金属で製作した型枠)の設計・製作からプレス加工まで、大量生産する時に使う金型製作を手掛けています。15年前、自動車部品会社からの依頼を受け、今では製品開発にも携わるようになりました。通常、金属を切断すると切断面はすべて滑らかな面にならず、3割程度は引きちぎられた状態になります(破断面)。この破断面を滑らかにすると、金属の抵抗が下がり、エネルギー効率が良くなります。言葉で表現すると簡単ですが、実際は、自動車部品会社と試行錯誤を繰り返し、約5年かけて共同開発しました。諦めない、妥協しない技術者の気持ちが形になりました。

丁寧でこだわり抜いた製品として、世界各国で高い評価を受け、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの自動車工場採用されています。

### 社屋外観



### モノ作りの魅力

社員は11人、そのうち女性が7人です。女性の技術者や製造業の勤務は初めての社員が多いです。モノ作りは技術力だけでなく、創造力の豊かさ、ひらめきが大切です。試行錯誤しながらイメージしたことを形にできた時、達成感を感じます。これがモノ作りの醍醐味です。この達成感を求めて、社員もわたしも、モノ作りを続けています。良い製品は良い人材(財)が創ります。良い人材とは、高い技術や知識だけでなく、人のためと考える人だと思えます。月に1回の研修などで、人材育成にも力を入れています。

**津山への思い**

若者の製造業離れの危機感から、モノ作りの本当の楽しさを伝えたいと思い、3Dプリンタを使った子ども向けの教室を開いています。自分がイメージしたモノを形にする楽しさや喜びに、幼少期から触れて欲しいです。

津山は文化、教育、自然豊かなまちで、モノ作りを学ぶ専門の学校、製造業の会社が多くあります。ワクワクするモノ作りの魅力を、津山の子どもたちにたくさん伝えていきたいです。

つぶき  
編集室

さくらまつりで打ち上げられた花火を撮影しました。津山城から花火を見るのは初めて。どの高さまで上がるのか想像しながら、桜と一緒に写る場所を探して撮影に挑みました。桜も花火もきれいに写真に収めるのは難しかったですが、久しぶりの花火と、めったに無い桜との共演に心が躍る取材でした。

さくらまつりの間、何度も通う津山城での取材中に元気をもらったのが、桜や石垣を見た人から聞こえてくる「きれい」「来て良かった」という感嘆の声です。自慢の場所への褒め言葉に、にんまりしてしまいます。今年も満開の桜に癒やされながら、たくさんうれしい声を聞き、幸せな時間を過ごしました。

今月は防災特集です。今年3月までを振り返ってみても、南太平洋のトンガ火山噴火、新潟県の積雪4メートル超え、福島県沖での地震がありました。政府の発表では、南海トラフ巨大地震の40年以内の発生確率を、90%程度としています。気候変動や災害情報には常にアンテナを張って過ごしたいです。